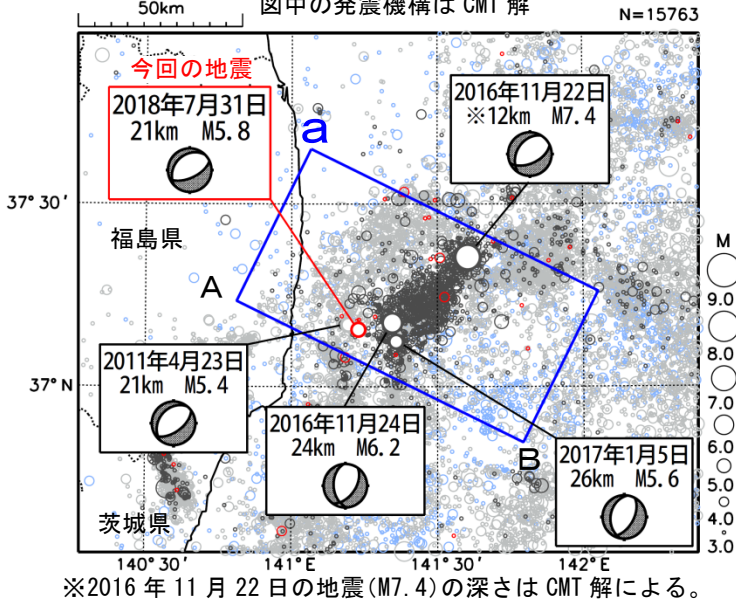


## 7月31日 福島県沖の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2018年7月31日、  
深さ0～100km、 $M \geq 3.0$ )

2011年3月10日以前に発生した地震を○、  
2011年3月11日以降に発生した地震を薄い○、  
2016年11月22日以降に発生した地震を濃い○、  
2018年7月に発生した地震を○で表示  
図中の発震機構はCMT解

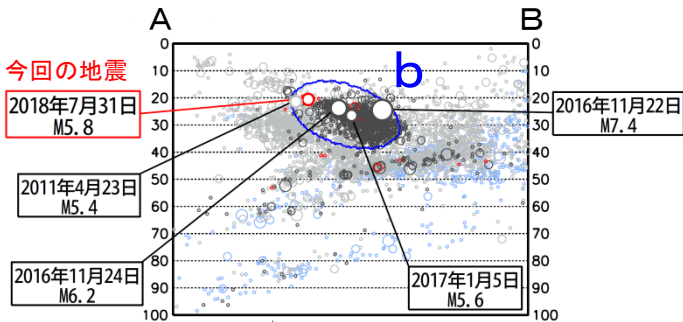


2018年7月31日17時42分に福島県沖の深さ21kmで $M 5.8$ の地震(最大震度4)が発生した。この地震は陸のプレートの地殻内で発生した。発震機構(CMT解)は北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型である。

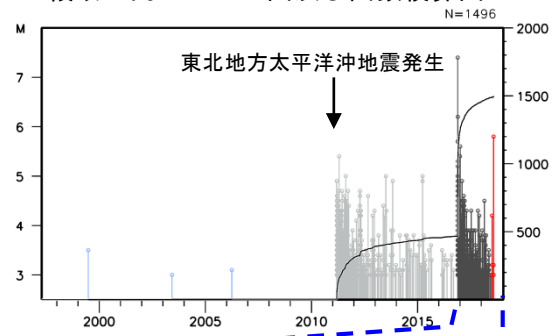
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(以下、東北地方太平洋沖地震と記す)の発生以降、地震活動が活発化した。地震活動が減衰傾向にあった中で、2016年11月22日に $M 7.4$ の地震が発生し、地震活動が再び活発となったが、その後徐々に低下してきている。

1923年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、1938年11月5日に $M 7.5$ の地震が発生した。この地震により、宮城県花洲で113cm(全振幅)の津波が観測された(「験震時報第10巻」による)。この地震の発生後、地震活動が活発となり、同年11月30日までに $M 6.0$ 以上の地震が25回発生した。これらの地震により、死者1人、負傷者9人、住家全壊4棟、半壊29棟などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図 (A-B投影)



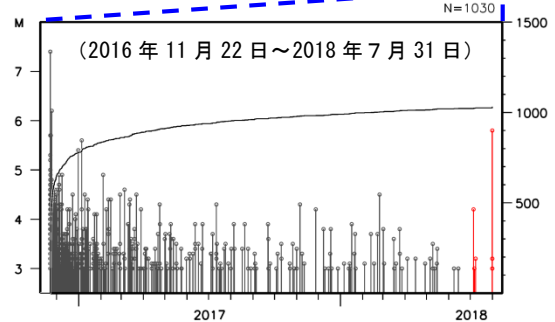
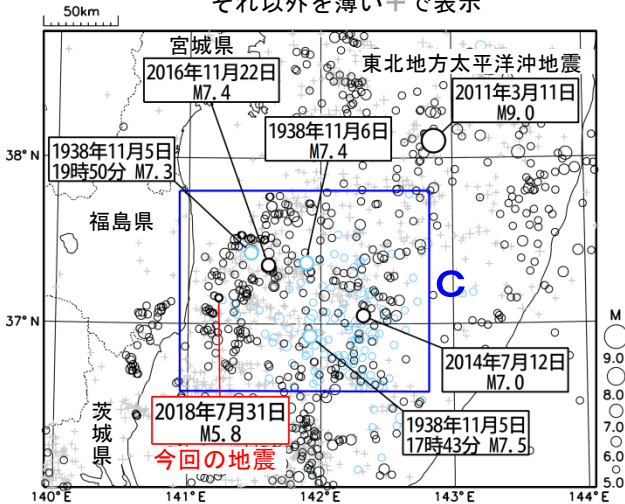
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1923年1月1日～2018年7月31日、  
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$ )

1938年11月1日～12月31日に発生した地震を○、  
2011年3月11日以降に発生した地震を濃い○、  
それ以外を薄い+で表示



領域c内のM-T図

